

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改 善 策	自己評価	外部アンケート等	改 善 策
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が90%以上。	・本校教育目標を理解し、誇りと自覚を持てるような教育活動を実践し、生徒の愛校心を育む取組を推進する。	A	A	結果は91.2%で良好だった。学校生活の基本となる授業において満足度をさらに向上させるとともに、ICTの活用や探究活動の充実を図る。	A	A	結果は90.4%で良好だった。引き続き教育目標達成のため、全職員が一丸となって教育活動に取り組む組織作りを推進する。
		② 学校行事や生徒会行事等を通してクラスの和が高まったと感じている生徒が90%以上。	・学年を超えた生徒交流の場を増やし、LHR活動を工夫して生徒の和を高めるようにする。	A	A	結果は92.7%だった。今後もより効果的な教育活動となるよう身に付けさせたい力を明確にしていき、既存の行事の見直しを行っていく。	A	A	結果は95%だった。分掌間で連携し行事の精選と集中を強化しつつ、生徒が学校行事を通して、達成感や自己肯定感を感じられるよう努力する。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③ 生徒の実態を踏まえ、到達度に応じた学習指導を実施することで、学習に対する達成感・満足感を持つ生徒が80%以上。	・コースや類型の特性を踏まえ、少人数指導、習熟度別指導等、生徒のニーズに応えた多面的な指導を行う。	A	A	結果は84.1%だった。生徒の特性や進路希望に合ったきめ細かな指導ができるよう、より効果的な少人数指導、習熟度別指導を研究していく。	A	A	結果は86.6%で、授業や面談の積み重ねにより成果が出せた。少人数指導、個に応じた指導をしている場面を保護者に伝えるのが難しい。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	④ 授業以外での1日あたりの平均学習時間が2時間以上である。	・学習時間調査の結果を有効活用し、低学年からの進路意識の向上を図れるよう指導を行う。	D	C	ICT機器を積極的に活用し、生徒が各家庭において個別最適化な学びに主体的に取り組む姿勢を育む。	C	D	教員、生徒、保護者の認識にやや隔たりがあるので、データを分析し、職員全体で取り組みたい。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑤ 職員会議等で生徒に関する情報交換を月に1～2度行う。	・学年会議や分掌会議等で定期的に生徒の情報交換・共有を行い、重要な情報等については職員会議で全職員の共通理解を図る。	A	—	生徒情報について全職員が共有するファイルを活用し、職員間で共通理解ができている。今後も必要な場面です時に組織対応ができるよう備える。	A	—	共有ファイルは入学時からの生徒の様子や対応状況が継続的に把握でき、組織的な対応において非常に有効であった。今後も共通理解の下、指導・支援を行っていく。
		⑥ 学級担任等による個人面談が効果的と考えている生徒が80%以上。	・継続的に二者面談等を行い、生徒の実態把握に努め、一人一人の特性に合わせた指導や支援を行う。	A	A	結果は88.3%で数値目標は達成している。担任、養護教諭、部活動顧問、SCなどさまざまな視点から生徒の様子を把握していく。	A	A	結果は85.8%だった。悩み事アンケートの結果から二者面談を通じて、生徒の心身の問題について組織的に動いて解決につなげている。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑦ いじめ発生防止と早期発見に努め、発生した場合のいじめ解消率が100%。	・アンケート調査や二者面談を通じて防止や早期発見に努め、いじめを絶対に許さない意識と態度を育てる。	A	A	生徒の結果は96%だった。県作成の「体験型webアプリ」等を利用し、生徒自身の意識高揚を図り、未然防止に努めていく。	A	A	生徒の結果は96.2%だった。体験型web教材を用いて、相手の気持ちになって言動や行動をとることの大切さを理解させた。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧ 自らあいさつができる生徒が90%以上。	・教職員自らあいさつをして、指導に結びつける。	A	A	数値目標はクリアしている。マスクで表情が伝わりにくいので、元気に明るい声で挨拶する。	A	A	結果は91.6%だった。気持ちのよい挨拶を通じて、心身の健康状態を良好に保てるよう努める。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑨ 進路実現にむけて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上。	・キャリアガイダンスやインターシップなど、幅広い選択肢から進路選択をさせる。	A	A	進路希望調査等から生徒の実態を把握し、自己肯定感やキャリア意識、学習意欲が高まる取組を推進する。	A	A	進路学習が大学調べに偏向することなく、キャリア意識や学習意欲に結びつくようにしたい。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑩ 大学などの進路情報を積極的に収集しようとしている生徒が80%以上。	・大学が行う模擬授業の活用やオープンスクールをヒントに自らの適性から進路選択を促す。	A	A	オープンキャンパスへの参加や、大学見学会、本校での模擬授業などを通し、進路意識をさらに高める。	A	A	オープンキャンパス、大学見学会、本校での模擬授業で、生徒は進路意識を高めることができた。
		⑪ 部活動と学習の両立が出来ている生徒が80%以上。	・部活動、学習ともに課題に対する集中力を身に付けさせる。	A	B	教員と生徒間で評価にやや乖離がある。面談等で実態把握に努める。	A	B	部活動の在り方に対する生徒の意識の変化に対応していく。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑫ 学校の教育活動を理解してもらうために授業動画や動画配信を年2回以上実施する。	・意欲と活気に満ちた授業を公開し、中学生や地域の方に本校の良さをPRする。	A	B	3年ぶりに授業参観を実施した。今後も授業を公開する機会を設け、学校への関心をさらに喚起する。	A	B	教員と外部アンケートで評価にやや隔たりがある。効果的なPR方法を模索していきたい。
		⑬ 学校通信の年6回以上発行や、行事ごとにホームページの更新を行い、最新の情報を発信する。	・情報発信と内容充実により、生徒、保護者、地域に本校教育活動の実態を知らせる。	A	A	今後もホームページ更新をタイムリーに行っていくとともに、内容を充実させ魅力ある情報発信に努める。	A	A	今後もホームページ更新をタイムリーに行っていくとともに、内容を充実させ魅力ある情報発信に努める。
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑭ 学校全体のICT教育活動に満足している生徒が80%以上。	・生徒がクロームブックを活用する授業を拡大する。	A	A	活用例の情報を収集し、教科会議で話し合い高め合うようにしていく。	A	A	ICTのさらなる活用を生徒が望んでおり、応えていきたい。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑮ クロームブックを活用できている教師が80%以上。	・クロームブックの活用方法を研究し、職員間で共有する。	B	—	活用実績の共有を進めるとともに、「分かる授業」への研究を続ける。	B	—	活用実績の共有化、教育効果の研究を引き続き進めていく。
		⑯ ICTを使うことによって、効率よく仕事ができている教師が80%以上。	・ICTを活用し、業務の効率化や能率化に努める。	C	—	9月から欠席等の連絡がデジタル化となり、朝の電話対応が減った。一方で、その利用法や対応について問題が生じないように注視していく。	B	—	欠席等の連絡のデジタル化、グーグルを利用したアンケートの実施、職員会議資料のデジタル化など、随所に工夫が見られた。